

4 段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸ヶ丘ならではの教育実践を通して、確かな学力と生きる力を身に付けた子どもを育成する。」 ① 少人数の利点を生かした教育実践を通して、学力向上を図る。 ② 子どもの将来に必要な資質を見据えた教育実践を通して、生きる力の育成を図る。
--------------	---

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察及び改善対策
				取組別	総合	
知 育	重点目標： 学力向上の推進 【手段】 1 複式解消によるき め細かな指導の充実 と「わかる・できる 授業」づくりと児童 の特性把握	1 ・NRT・CRT 学力調 査全国・県平均以 上 ・Web 学習単元評価 システム活用 100 % 活用	(1) 複式解消非常勤講師及び教頭による複式解消 ○ 複式解消非常勤講師＝3・5年算数、 4・6年国語を担当 ○ 教頭＝1年算数、2年国語を担当 (2) 学習指導・個別指導の充実 ○ ICT や Web 学習単元評価システム、アセスメントシ ートの活用による学習指導の充実（タブレット PC の積 極的かつ効果的な活用） ○ 一人一人の学力分析による個に応じた指導の充 実 (3) 研修の充実 ○ 主題研究や外部講師による研修の充実による教 師の授業力向上を目指す。	3	3	○複式を解消できるので、授業の内容 をしっかりと押さえる環境や体制 ができています。 ○児童が少ないので、実態に応じた 細やかな指導ができています。（実物 や具体物を揃えて使うことができ る。） ○ ICT 活用に関しては、各学年で実 態に合わせながら進めることが できています。 ● ICT 活用、タブレット PC の活用 能力育成の為に計画的に研修を行 っていく必要がある。
	2 小中一貫教育（3 校合同研究）の推進 と一人1研究授業を 通じた授業改善	2 ・一人1研究授業の 実施 ・年4回の3校合同 研究会の実施	(1) 一人1研究授業による授業力向上 ○ 主体的・対話的な校内研究の実施 ○ 全教員参加による研究の深化 (2) 3校合同研究の充実 ○ 定期的な3校合同研究会の実施 ○ 共同研究の成果の自校研究への活用	3	3	○主題研や3校合同研究を通して、 国語科の読解力、表現力をつける という意識は、高まってきている。 ○一人1研究授業を行い授業改善に 努めており、児童の学力向上にも つなげている。
	3 読書活動の推進	3 ・年間貸し出し冊数 一人100冊以上 ・保護者向け貸出の 啓発	(1) 学校図書館協力員による図書室整備と蔵書の充実 ○ 継続的な図書室整備と計画的な図書購入による 蔵書の充実 (2) 「読み聞かせ」による意識の高揚 ○ 地域や中学生による読み聞かせを通して児童の 読書への関心意欲の向上 (3) 家読の推進 ○ 家庭での読書推進の啓発	3	3	○西小林中学校の卒業生による読み聞か せ、地域の方の読み聞かせなどに親し む環境ができています。 ○図書室の保護者開放も「あんあん文庫」 の設置や充実も進み促進のための手立 てがうたれている。 ○図書貸し出し100冊以上2名、80冊 以上5名と読書に関する意識が高まっ ている。
	4 家庭学習の充実	4 ・年3回の「家庭学 習ふり返り週間」 の実施 ・担任による見届け と称賛	(1) 「家庭学習ふり返り週間」の実施 ○ 家庭学習の在り方についての家庭での振り返り 状況の把握と対策 (2) 担任による見届けの実施 ○ 学習意欲を喚起するための提示物への確実な見 届けと称賛	3	3	●家庭学習振り返り週間の結果を通 して、メディアの時間が長かった り、学習の時間が短かったりとい う家庭もあった。懇談会や個人面 談などで家庭学習の大切さを啓発 していくことが大事だと考える。
徳 育	重点目標： 豊かな心の教育の推進 【手段】 1 西小林中校区の小 中一貫 教育のきま り定着及び集団規律 の徹底	1 ・西小林中校区きまり 定着100% ・返事・挙手・声の大き さ・立腰・あいさつ・集 団行動のきまり定着1 00% ・立腰及び鉛筆の正しい 持ち方の定着100%	(1) 全職員による共通実践と意識の継続化 ○ 本年度の重点指導事項を全職員で共通理解・共 通実践 ○ 集会等を活用しての常時指導（意識付けの言葉 かけ等）による集団行動のきまりや立腰・鉛筆の 正しい持ち方等の指導 ※ 基本的生活習慣の確立 ※ 3密をさける行動	3	3	○日々の指導や全校集会等で学習や 生活のきまりを話すことで、規範 意識の向上につながっている。 ●あいさつがよくなってきているよ うに感じるが、引き続き指導して いきたい。
	2 道徳教育の充実	2 ・授業の流れの継続 ・別葉の活用	(1) 道徳授業の保護者参観の設定 ○ 7月の参観日に全学級で道徳の参観授業を実施 （人権関係） (2) 道徳研修の実施及び別葉の活用 ○ 一昨年度の研究を生かしての主体的・対話的な 授業の実施	3	3	○6月の参観日で人権に関する授業 を設定したり、PTA さかなのつか み取り活動等を通して命について 考えさせたり豊かな心の醸成に努 めている。
	3 キャリア教育の充 実	3 ・「こすもす科」100% 実施 ・昨年度の実績を踏 まえた地域人材活 用を行う。	(1) 「こすもす科」の計画的な実施 ○ キャリア教育のねらいをふまえ、「こすもす科」 の授業の完全実施 (2) 地域人材の活用 ○ 「KSSVC」を活用しての地域人材による授業や 活動の充実させる。	3	3	●保護者の方々にも協力を得ながら キャリアパスポートを整理した。 今年度からの取組なので、キャリ アパスポートの活用についても更 に進めていきたい。
	4 朝のボランティア 活動の活性化	4 ・称賛と支援による 活動の充実 ・参加率100%	(1) 環境整備を通じた奉仕の精神・愛校心の涵養 ○ 校内清掃の内容の充実と自主的な取組への啓発	3	3	○朝のボランティアの参加者が増え てきつつある。毎日出てくる児童 がいる。また、低学年も毎日継続 しているので良くなっている。
	5 「幸ヶ丘太鼓」の 取組及び作品応募を 通じた自信とやる気 と達成感の涵養	5 ・昨年度の実績と反 省を踏まえた太鼓 発表の機会の設定 ・1児童1作品の入賞 または新聞等掲載	(1) 太鼓指導の充実 ○ 外部指導者（響座）と職員による月1回程度の 指導の実施と内容の充実 (2) 発表の機会の増設 ○ 例年の発表（運動会、音楽大会、学習発表会、 地区行事）+みどりの少年団総合研修会及、県太 鼓フェスティバル等での発表 (3) 積極的な作品応募・作品登校 ○ 各種の作品展やコンクール、宮崎日日新聞「若 い目」や詩歌への作品掲載を通しての自信と誇り の涵養	3	3	○幸ヶ丘太鼓については、講師の協 力もあり、児童数は減っているが 発表できる形までもっていくこと ができた。 ○運動会、西諸音楽大会、太鼓フェ スティバルなど大きな舞台で太鼓 発表をすることで、声等も大き くなってきた。
	6 教育相談の充実	6 ・月1回の教育相談 ・すこやか委員会の 実施	(1) 教育相談の充実 ○ 月1回教育相談アンケートを通しての児童の人 間関係や家庭状況、心の状態等の把握といじめ等 の早期発見 (2) すこやか委員会の実施 ○ 教育相談の結果を全職員で共有し問題行動等へ の対応の在り方等について協議、共通実践	4	4	○教育相談や教師同士で情報交換を 行い、児童への声かけに生かすこ とができた。（目配り、心配りを心 がけるようにする。） ○すこやか委員会で児童の様子を共 通理解することができ、児童の様 子の変化を見守る体制ができてい る。

体 育	重点目標： 健やかな身体の育成 【手段】 1 一人一人に応じた 体力向上の推進	1 ・新体力テスト5% アップ	(1) 体力の把握と体力向上プランの策定 ○ 児童一人一人の体力の把握と、体力向上プラン を策定 ○ 体力向上のための遊びの奨励と体育学習の充実 ○ 学校保健委員会において児童の体力の状況周知と 体力向上のための取組を共有	3	●体力向上に関する取組がまだ少ない ので、今後、課題解決の取組を 考えて実施していきたい。 ●外遊びもしているが、活発に運動 させるための手立てを考えていか ないといけない。 ●早寝、ノーメディアについては、 今後も保護者と協力して改善して いく必要がある。 ○肥満傾向児童への保健指導、各種 治療の啓発など養護教諭と学級担 任とで連携して進めることができ た。 ○児童会活動でみんなで遊ぶ日が1 つの契機となり、外遊びも増えて いる様子。肥満対象児童への「体 重減」という結果にもつながって いると思われる。 ●生活リズム週間の記録では、欠食 率30%と望ましくない結果も出 た。家族単位での生活変容が求め られるため、難しい面もある。 ○欠席が非常に少なく、全体として ほぼ無欠席でありよいと思う。教 育活動が計画的に進んでいる。 ○現在むし歯の治療率は、66.6 %である。今後も引き続き家庭へ 啓発していく。
	2 外遊びの推奨	2 ・幸っ子パラダイス の実施	(1) 週1回の「幸っ子パラダイス」の実施 ○ みんなで外で遊ぶ機会の設定（毎週木曜日）	3	
	3 「早寝・早起き・朝 ごはん」・ノーメ ディアデーの奨励と基 本的な生活習慣の定 着	3 ・朝ごはんを食べて くる児童100% ・「ノーメディアデー」 の定着100%	(1) 保健指導の充実 ○ 朝食の内容充実のための保護者向け啓発活動 (家庭での食生活について親子で振り返る週間の 設定) (2) 学校保健委員会での講話の実施 ○ 保護者への啓発による、ノーメディアデーの定 着		
	4 肥満率の解消	4 ・対象児童への保健 指導の充実	(1) 保健指導の充実 ○ 家庭への協力要請と運動と生活面における保健 指導の充実 ※ 外部講師による保健指導の充実	3	
	5 全員登校年間 150 日以上	5 ・全員登校の日 150 日以上 (1/20 150日達成)	(1) 児童の健康に対する意識付け ○ 児童の健康への意識向上と欠席日数の減少 ・元気で登校できることのすばらしさの話 ・日常の健康観察、保護者との連携の充実 ・マスク着用、手洗い、うがい、手指消毒等	4	
	6 むし歯治療率の向 上	6 ・むし歯治療率 100 %	(1) 定期的な治療勧告の実施 ○ 健康診断後及び長期休業の治療勧告の実施 ○ フッ化物洗口による意識高揚とむし歯の予防	3	
食 育	重点目標： 望ましい食習慣の育成 【手段】 1 給食指導の充実	1 ・残菜0 ・正しい箸の持ち方 100%	(1) 食事場所での偏食指導及びマナー指導 ○ 食事の場を利用した指導の充実 ・自分に合った食量 ・偏食 ・食事のマナーなど	3	○食事のマナーについては、大変よ くできている。給食の指導も工夫 しながら指導が進められている。 ○養護教諭を中心に個に応じた給食 指導を行うことができていた。 ○1人1人の適量を考えた配膳を 行った結果、時間内に食べきるこ とができるようになってきた。 ○残食0の日も増えてきている。 ●サツマイモ栽培や梅ちぎり活動な ど子ども達の表情もよく体験活動 が充実している。次年度は、常時 活動でサツマイモまわりの草取り 等関わらせていきたい。 ○弁当の日に関しては、3校合同実 施ということもあり、食育だより も併せて発信してあり、地域を 上げた取組になっている。 ○学校保健委員会は、当事者の話 を通してLGBTQについて理解を促 した。多様性についてを考える機 会となった。 ●生活リズム週間を通して、保護者 と話す機会も増えてきた。効果的 な時間の使い方を促していきたい。
	2 体験活動と関連さ せた指導の充実	2 ※数値目標なし	(1) 栽培活動との関連を図った指導の充実 ○ 食への関心の向上 ・梅ちぎり活動 ・サツマイモの苗植え ・収穫などの体験活動 (2) 外部機関による食体験の充実 ○ モーモー教室等の実施を通して食の体験の充実	3	
	3 弁当の日の実施	3 ・弁当の日2回実施	(1) 弁当の日の実施 ○ 学年に応じて、遠足の日の弁当づくりや長期休 業中に家庭での調理体験を通しての、食への関心 の向上と感謝の心の涵養	3	
	4 家庭との連携	4 ・朝ごはん摂取率 100 % ・肥満予防への取組	(1) 家庭での望ましい食生活の啓発 ○ 定期的な、または適宜に発行する「保健だより」 を通しての保護者への啓発	3	
そ の 他	重点目標： 保護者や地域から信頼 される安全・安心な学 校づくり 【手段】 1 小小・小中連携及 び幼保小連携の推進 2 学校運営協議会の 推進	1 ・小小・小中の交流学 習年4回以上実施 ・幼保小連絡協議会 年2回実施	(1) 交流学习、幼保小連絡協議会の実施 ○ 情報の共有や職員間の親睦を図り、小1プロブ レムや中1ギャップに対応体勢の計画的な交流活 動を実施 ○ 保育園や幼稚園との共通実践、連携をはかり、 一貫した教育への取組 (新入児の所属園とも連携)	3	○かおる幼稚園での園児との交流や 職場体験も生活科やこすもす科で の体験を伴う学習として意義ある ものとなっている。 ●計画した3回を実施することがで きた。2回目は、時期が遅れたの で、早めに計画の連絡をする必要 がある。 ○関係機関に協力してもらい自然災 害への準備や等の大切さが実感で きる取組ができています。 ●噴火災害対応では、二次避難場所 の南地区体育館で保護者への引き 渡し訓練が実施できた。よりスム ーズにできるように保護者と共通 理解を図ってきたい。 ○コンプライアンス研修では、動画 等も活用し、事例をあげながら分 かりやすい研修が行われている。
	2 学校運営協議会の 推進	2 ・学校運営協議会の 年3回実施（中学 校区年2回実施）	(1) 学校運営協議会の実施と内容の充実 ○ 開かれた学校づくりに努めるため、学校行事と 関連させて学校運営協議会の実施	3	
	3 防災教育の推進	3 ・学校における避難 訓練年4回実施	(1) 避難訓練の実施 ○ 地震・火災・風水害・不審者対応の4つについての 避難訓練を実施する ※ 噴火災害対応の避難訓練の計画・実施 (2) 「自分の命は自分で守る」ことを主眼に、家庭や 地域においても率先避難者となれるような教育の 推進	3	
	4 信頼される教職員 の育成	4 ・コンプライアンス 研修月1回実施 ・不祥事等0	(1) コンプライアンス意識の向上 ○ 毎月1回、コンプライアンス研修（交通安全や 体罰、情報漏洩など様々なテーマ）の実施 ○ 学校内から不祥事を出さないという意識の向上	3	

次年度の方向性 についての校長 所見	○ 今年度もコロナ禍での教育活動であったが、昨年度の反省等を活かし、with コロナでの教育活動を進めてきた。どの項目の評価も良好であった。今年度の教育活動の反省点を次年度に生かし、以下の取組に努めていきたい。 ・【知育】：タブレット PC を積極的に活用した授業からタブレット PC を授業で効果的に活用したり、児童のスキルアップを目指したりする。 ・【徳育】：基本的な生活習慣（特にあいさつ、反応する）を確立させるとともに、児童のキャリア教育の具体的な実践に努める。 ・【体育】：児童の更なる体力向上、健康増進への具体的な取組を行う。 ・【食育】：家庭と連携し、食への関心や感謝の気持ちを高めるとともに、生活リズム習慣等への具体的な指導を行う。 ・【その他】：地域と連携した防災訓練を計画・周知し、地域と合同で実施する
--------------------------	--